



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

## 進行期乳房外Paget病の臨床的検討およびケラチン発現の免疫組織化学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神谷, 秀喜 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/15372">http://hdl.handle.net/20.500.12099/15372</a>

氏名(本籍)	神谷秀喜(岐阜県)
学位の種類	博士(医学)
学位授与番号	乙第901号
学位授与日付	平成6年3月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	進行期乳房外 Paget 病の臨床的検討 およびケラチン発現の免疫組織化学的研究
審査委員	(主査)教授 森 俊 二 (副査)教授 佐 治 重 豊 教授 高 見 剛

### 論文内容の要旨

乳房外 Paget 病 (P 病) は Sir James Paget により臨床的概念が確立されて以来, 本症を特徴づける Paget 細胞の本態について様々な研究がなされてきたが, その発生源に関しては統一見解が得られるにはいたっていない。一方表皮内癌である P 病は進行期にいたると硬い結節や腫瘤を形成し, 組織学的にも大腸癌などの腺癌と判別し難く, 臨床的進行期の Paget 癌 (P 癌) として定義づけられる。今回はこの P 癌について臨床的, 組織学的特徴を考察し, さらに免疫組織化学的手法を用いて P 癌の発生, 分化を検討した。

自験例の P 癌 13 症例を対象として, その臨床像を検討すると次のような特徴が同われる。

- 1) 今回集計した P 病および P 癌は総計 56 例で, うち 13 例 (25%) が P 癌であった。平均年齢 69 歳, 60 歳以上が 79% を占めた。受診までの期間は平均 3.9 年で, P 病のそれと比較して特に長いわけではなかった。これは緩慢な経過をとる P 癌と急速に進行期にいたるケースが含まれる。
- 2) 臨床像はまず P 病をベースに硬い浸潤を触れる局面を形成し, その後局面の各所に様々な形, 大きさの結節や腫瘤を生じる。なかには巨大な腫瘍塊を形成する例や悪性黒色腫と鑑別が紛らわしい症例もあった。
- 3) 他臓器癌を合併した症例は 5 例 (38%), P 癌の他臓器転移が認められたものは 3 例 (23%) であった。P 癌の悪性腫瘍合併率は P 病に比べて明らかに高率であった。

表皮内の P 病は無定形細胞塊を形成する 경우가多いが, 真皮内浸潤をきたすと一部では P 癌特有の腺癌様構造を示し, 組織構築は “invasive adenocarcinoma” としての性格を有した。P 癌にも分化形質に沿った組織段階があるとすれば, 高分化, 中分化, さらに従来単純癌といわれた低分化の P 癌に分けられる。但し, 腫瘤部の腺癌としての分化度による予後の差異は症例も少なく, 結論は下せなかった。一方リンパ節, 他臓器に転移した P 癌は腺癌としての分化度に関わらず, 腺癌形態を示すことなく腫瘍塊を形成して増殖するが多かった。

P 癌に対する免疫組織化学的検討により以下のような所見を得た。すなわち P 癌における P 細胞も P 病のそれと同様に, 正常汗腺分泌部腺細胞とケラチン発現パターンはほぼ同じであり, たとえ進行期にいたり腺癌様構造へ変化しても, P 病としての性格を備えていた。つまり P 癌も汗腺細胞由来, もしくは汗腺細胞に分化している腫瘍であることを示唆した。ただし, その染色態度は全体として P 病に比べて不安定であり, 染色性にむらが生じたり, 全体が薄く染色される場合があった。一方, 今回の染色では大腸癌や肛門癌の症例は染色性に一定の傾向が掴みにくく, ある程度は P 癌と同様腺細胞のケラチンを発現しているが, 明らかに P 癌と鑑別可能な抗体は認められなかった。つまり抗ケラチン抗体を用いての免疫染色では P 癌と他の腺癌 Paget 現象とを判別することは困難と考えられた。

## 論文審査の結果の要旨

申請者神谷秀喜は、自験例の検討をもとに進行期乳房外 Paget 癌の臨床的組織学的特徴を明らかにし、さらに抗ケラチン抗体を用いた免疫組織化学的手法を用いて乳房外 Paget 病との比較および大腸癌をはじめとする腺癌の Paget 現象との鑑別を試みた。そして Paget 癌は汗腺細胞由来もしくは汗腺に分化している腫瘍であることを示唆する所見を得て、大腸癌や肛門癌もある程度は同種のケラチンを発現しているという知見を加えた。この知見は皮膚腫瘍学の発展に寄与するものと認める。

---